

デモクラシイ エコクラシイ  
「民主主義」から「生態系主義」へ

—新しい企業経営と財務の理論を目指してCSRからCREへ—

建部好治(公認会計士・不動産鑑定士)

一方において、各企業等がCSR（「企業の社会的責任」）や「社会貢献」への取組を喧伝しているにも拘わらず、企業等の不祥事件が絶えないし、不合理な格差がますます開く状態にある。他方において、CSRの定義は、EUの「ホワイトペーパー」によれば、「企業が社会問題、環境問題を事業活動およびステークホルダーとの相互関係に自主的に統合する概念」とされているが、社会問題については社会的責任が対応しているのに対して、環境問題についてはそれに対応する言葉が明示されていない。

したがってここでは、次の順序で持続的共生のための「生態系主義」の理念の下における新しい企業経営と財務の理論の構築を目指したい。

1. 「民主主義」から「生態系主義」へ

「生態系主義」とは、「民主主義」(=Democracy)を超えた持続的共生のための新しい理念—「生態系主義」(=Ecosystem cracy→”**Eco-cracy**”)—のことである。

2. 持続的共生のための共感と共理

①自己と他者（友、上司・同僚・部下、法人、国等）との関係、②法人と他者（消費者、法人、国等）との関係、③自己、法人、国等と他物（人間以外の生態系）との関係、④国等と他者（他国等）との関係において、それぞれ持続的共生のために共通する感性的認識（共感）と理性的認識（共理）又は理性的認識（共理）を持つことが重要である。

3. 経済の目的（「生態系主義」の理念）

経済の目的は、狭義の「自己利益」の追求にあるのではなく、最終的には、自己利益と、①他者の利益、②後世代の利益、③自然環境の保全・保存の三者とが共存するという「地球と立体空間での生態系の同時的・異時的な持続的共生の理念」が実現された下における、健康で文化的な人間生活の向上にある

4. 新しい企業経営と財務の理論の展開（CSRからCRE＝「企業の生態系全部に対する責任」へ）

CSR（Corporate Social Responsibility＝「企業の社会的責任」）は、社会問題に重点をおいているが、自然環境問題に重点をおいたCRE（Corporate Responsibility for all Ecosystems＝「企業の生態系全部に対する責任」－CSRを含むもの）にかえる必要がある。

5. 不祥事件・格差拡大及び自然環境問題への対策

「生態系主義」の理念を実現するための一国等だけの法規制でそれに対応したのでは国際的な競争に敗退することが自明であるから、国際機関による討議のうえ、それらの討議参加諸国の合意に基づく協定書を各国が承認するという手続きを踏むことが、その理念の実現を支援する必須の条件となる。